

豊田邸

ガレージ造りにおいて「泣きの黄金律」を具現化した男の隠れ家。

豊田俊さん
千葉県

ガレージの構造: 2×4工法
ガレージ面積: 58.0㎡ (17.6坪)

収納台数: 2台

ジョージ・ハリスンとロータス・エリーゼをこよなく愛する豊田さんが造り上げた“聖域”には、趣味人が寝食を忘れて構築した空間にしか宿らない独特の空気が流れていた。

Report / Hidenori TAKAKUWA Photo / Yoshiaki-AMADA
special thanks to ジェイスタイル・ガレージ phone:0120-485-296 http://www.js-g.co.jp/

バスカルの名言に「想像力は万事を左右する。それは美や正義や幸福を作る。それらはこの世の万事である」という言葉がある。ここで紹介する豊田俊さんの想像力は幸福を作った好例だといえるが、とにかく、豊田さんほどガレージのある生活の楽しさ（＝幸福）を明確に表現してくれている人も珍しいといえるだろう。

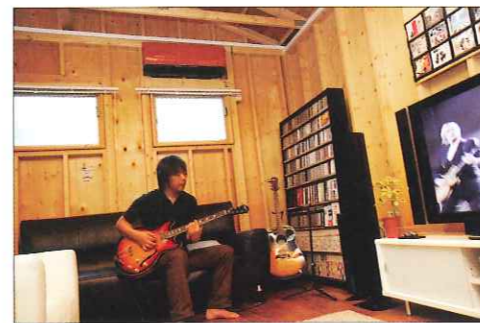
実は、今回紹介した豊田さんご自慢のシダーガレージは完成直後に取材したもので、それ以前はどこに愛車たちを保管していたのかというと、豊田さんのお父さんが自作したという倉庫をモディファイしたスペースに日本&英国を代表するスポーツカーを入れていた。

そこで、複数存在する倉庫のひとつ（一番自宅に近かったヤツ）を解体し、豊田さんは26×24フィート・サイズのシダーガレージを建てたのであった。

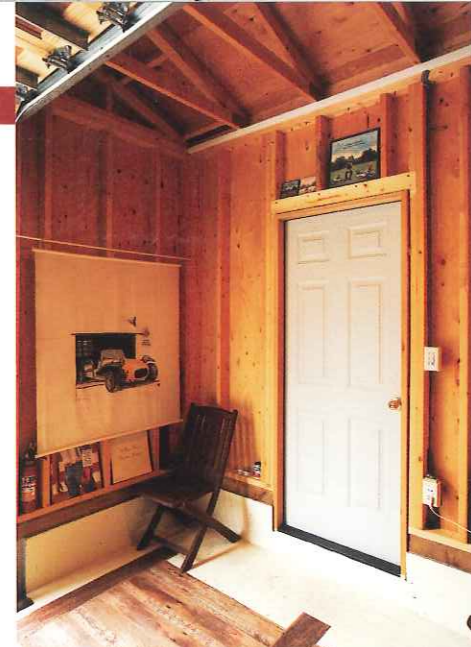
ちなみに、エリーゼを購入した当初からエリーゼ・カップと呼ばれるワンメイク・レースに参戦していた豊田さん（初年度に111クラスで見事にクラス優勝←参戦2戦目での快挙/'00年〜'03年まで参戦）は、天候に左右されることなく愛機のメンテナンスを行なえるようなスペースの必要性を強く感じていた。しかし、ガレージを建設したいという思いよりもレースで好成績を残したいと思う気持ちの方が勝っていたこともあり、ガレージ建設計画は先送りされることになった。

ジェイスタイル・ガレージに連絡し、とんとん拍子に話が進んだわけだ。ご存知の方も多いように、シダーガレージは「品質安定性に優れ、セルフビルダーにもうれしいキット」として知られているが、豊田さんは基礎工事を含む施工全般をジェイスタイル・ガレージに任せ、自らは木製ガレージドアの組み立て、外壁およびフロアの塗装といったパートを担当したとのことだった。そして、豊田さんはリビング部分の製作を担当し、ガレージ竣工直後から製作に着手したそうである。シダーガレージは構造がシンプルなため、ガレージとしてはもちろん、スタジオやアトリエとして楽しんだり、ローコスト住宅や店舗のベースとして活用できたりもする“自由度の高さ”が魅力だといえるが、豊田さんはガレージ&第2のリビングとしてシダーガレージの優位性を満喫しているのだ。

豊田さんは、開閉可能な窓に関してこだわりを反映させ、キットに含まれるモノをそのまま取り付けのではなく、（一部だけだが）特別仕様となる大きな窓を奢っていた。



一段高くなったリビングは、豊田さんが自作したモノ。2×4材をガレージのフロアの上に並べ、その上にベニヤを置き、フローリング用のマテリアルを敷いて完成させたそう。



通用口ドアの上にジョージ・ハリスンの最高傑作「ALL THINGS MUST PASS」のレコードを飾っていたことから、豊田さんのジョージに対する愛の深さを感じ取れた。

周囲に民家が存在していないため、豊田さんのガレージは、時折、スタジオに変身するわけだ。ちなみに、豊田さんの指先は、完全に趣味の域を脱している素晴らしい音色を奏でていた。

Editor's Eye

使い方を絞った割り切りガレージ

35坪にシダーガレージを建てた豊田邸は“男の隠れ家”といったフレーズや“秘密基地”といった言葉がとてもしっくりくるガレージだった。自宅の目の前に割り切って建てたガレージはご自身で手を入れたところも多く、リビングを完成させたコスト削減の徹底と、いろいろな工夫が多く見受けられるのが印象的でもある。シダーガレージのメリットを最大限活かして趣味の空間と徹底的に割り切っているところがいいところではないだろうか。

●Garage Life 29号に掲載

お買い物専用車として活躍している日産キューブも、ガレージの住人として豊田さんご自慢の空間内で羽を休めている。こちらのボディカラーもガレージの雰囲気にマッチした非常にセンスのいいものだった。

